

このたびは、ミツバ「ガードッグ・プロタイプS」をお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。この取扱説明書は、製品の正しい使い方や取付け方、使用上の注意について記載してあります。取扱説明書を最後まで必ずお読み頂き、正しく製品を取付け、お使いください。また、取扱説明書が必要になった時、すぐに利用出来るように大切に保管してください。

ミツバG-Systemについて

「ミツバG-System」とは、別製品同士を組合せることにより、プラスアルファの機能が実現できるように設計されたブレッドアップ対応システム製品です。今後、「ミツバG-System」別製品を随時発売する予定になっています。
「ミツバG-System」別製品を添付継続する場合、取付の接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取付に関する詳細については、別途、G-System接続ハーネス取扱説明書をご覧ください。

1 安全に関する注意事項

記号と意味は次のようになっています。

警告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、製品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

警告

- 本製品をセットしたまま運転しないでください。重大な事故の原因になります。
- 本製品は大音量のため、耳のそばで動作させないでください。耳に障害が残るおそれがあります。
- 本製品は車内に人やペットを残したままでは絶対にセットしないでください。耳を痛めるおそれがあります。

注意

- 本製品は12V車にのみ取り付け可能です。24V車への取り付けはできません。
- 車のバッテリーが弱っている場合及び車本来の機能に不具合がある場合は、正常に動作しないことがあります。
- 本製品の配線接続時は、バッテリーケーブルのマイナス端子を外してから作業してください。ケーブルを外さないで作業すると、配線がショートして火災・故障の原因となります。
- 付属コネクタによる配線の際は付属コネクタのフタを確実にロックしてください。付属コネクタの金属部が車体の金属部などに接触すると、ショートして火災・故障の原因となります。
- 本製品に水がかからないようにしてください。火災・故障の原因となります。
- テストをする場合は、本体セット後、必ず車の外に出てから行ってください。
- 本製品のアラームは非常に大音量のため、テストの際は、絶対に長時間の試聴はしないでください。
- テストをする際は周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 本製品の分解、塗装、改造は絶対行わないでください。火災・故障の原因となります。

使用上の注意

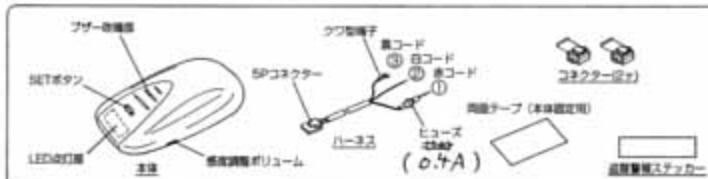
- 本製品は車両に対するいざらや盗難に対して警告、警報を発するものであり盗難等を防止するものではありません。本製品を取付けたお車が万一盗難事故やいざら等の被害に遭われても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また、故障・誤動作により警報機が使用出来なかったことによる付随の保証につきましても同様で、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品は次のような場合は警報を発することがあります。
 1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。
 2. 地震が起きた場合。
 3. 線路の付近、道路の付近、振動がある場所で使用した場合。
- ルームランプに透光コントロール機能のついていないお車や、キーレス操作によりルームランプ等が点灯するお車の場合、ドア開閉による警報が出来ないことがあります。
- キーレス操作によりルームランプ点灯またはハザード点滅するお車の場合、キーレス操作にてドアロック開閉した時に警報を発することがあります。
- 本製品を動作させたまま長期放置しないでください。バッテリー上がりの原因となります。

2 使用工具

- +ドライバー
- プライヤー、ペンチ等
- テスター
- その他

3 パッケージ内容

取り付け前にパッケージの内容を必ず確認してください。



4 取り付け方法

注意

- コネクタのフタは確実にロックするまでペンチ、プライヤーで圧着してください。コネクタの金属部が車体の金属部などに接触するとショートしてクガや車両火災の原因となります。
- テスターで電圧を確認する場合は、バッテリーケーブルのマイナス端子を外して作業を行ってください。外さずに電圧を測るとショートしてクガや車両火災の原因となります。
- 黒コードを接続されている金属部分や、車の振動等でゆるんでしまう場所に取付けると本体が正常に動作しない事があります。
- 白コードの接続が不完全な場合、本体が正常に動作しない等の不具合が生じます。接続不良が起らない様に確実に取付けてください。

- (1) 黒コードの接続
 - 付属の専用ハーネスから出ている黒コードを車体の金属部分に確実に締め付けます。(図1) これにより同時にバッテリーの(-)に接続されます。
- (2) 赤コードの接続
 - エンジン・キーが「OFF」の状態でも常に電圧(約12[V])がかかるコードをテスターで探して下さい。(図2)
 - 付属の専用ハーネスから出ている赤コードを上記のコードへ接続して下さい。接続は、付属コネクタを使って下さい。(図3-5)



注意

- ヒューズは必ず1Aヒューズをお使いください。1A以上のヒューズを使用されますと、本体の故障の原因となります。

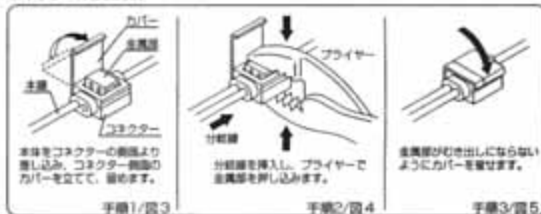
- (3) 白コードの接続
 - 下記①または②のどちらかに該当するコードをテスターで探してください。(図2)
 - ① エンジン・キーが「OFF」の位置のとき0[V]で、「ON」の位置のとき電圧(約12[V])がかかるコード。
 - ② エンジン・キーが「OFF」の位置のとき0[V]で、「ACC」の位置のとき電圧(約12[V])がかかるコード。
 - 付属の専用ハーネスから出ている白コードを上記の①または②のコードへ接続してください。接続は、付属コネクタを使ってください。(図3-5)

●リセット方法は、上記白コード接続先により下記ようになります。
 ・①の場合→エンジン・キーを「ON」の位置にしたとき、本体がリセットします。
 ・②の場合→エンジン・キーを「ACC」の位置にしたとき、本体がリセットします。

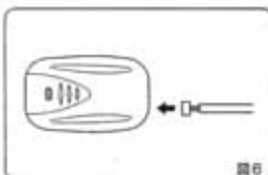
テスターでの探し方



コネクタの接続方法



- (4) 本体とハーネスの接続
 - 図6のように、振動等で外れないように最後まで確実に差し込んでください。このとき本体から「ピッ」と確認音がなります。



- (5) 本体の設置
 - 本体をフロントのダッシュボード上等に設置します。カーペット・モケット等やわらかい部分には設置しないで下さい。設置する場所は、運転に差し支えない場所を選んで下さい。また、本体の固定は、取付け面の汚れや油分をよく落とし、付属の両面テープで確実に固定してください。

注意

- エアバッグ装着時は、エアバッグカバー部には本体を設置しないでください。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。
- 本体がしっかりと固定されていないと振動が本体に伝わりにくくなるため、振動センサーが十分に感知しなくなるおそれがあります。
- ハーネスの取り回しは、ペダルやハンドルの動きに干渉しないようにしてください。また、ショートの原因となり大変危険ですので、カーペット等やわらかい部分には設置しないでください。
- 本体は防水構造になっていないため、水がかからない場所に設置してください。
- 動作不具合の原因になりますので、本体は無線送信、強い電波ノイズが発生する機器とは離れた場所に設置してください。
- エアコンの吹き出し口は高温になり、また結露の原因にもなりますので、この付近への設置もやめください。

- (6) 動作確認
 - 本体の取付け、配線が終了したら、動作確認をします。当、動作確認を行う前に裏面の「使用方法」及び「主な動作仕様」を一読し、一連の動作手順をよく理解した上で行ってください。裏面の確認手順に従い本体を動作させながら、各動作状態において本体が正しく動作することを確認してください。

注意

- 動作確認をする際は、本体セット後、必ず車の外に出てから行って下さい。大音量プザーにて警報するため、耳のそばで警報させると耳を痛めるおそれがあります。
- 動作確認をする際は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。

保証規定

保証の範囲や条件など詳しい内容について説明します。必ずお読みください。

お問い合わせいただきました本製品は、当社の新しい品質管理のもとで製造されたものです。万一、材料上あるいは製造上の不具合がございましたら、この保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

- 経費は、お問い合わせ後または、当社窓口へ保証書、不具合内容を提示の上、ご依頼ください。
- この保証書は保証期間満了した時に効力を失うものとします。また保証期間内であっても製品が日本国外に持ち出された時には効力を失うものとします。(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証書は盗難または紛失した場合でも再発行はいたしませんので大切に保管してください。

次に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象となりませんのでご注意ください。

- 車体を分解、改造した形跡が認められた場合。
- お客様の故障、または過失による事故と認められた場合。
- 地震、台風、水害などの天災ならびに火災、事故、その他紛争などによる故障が認められた場合。
- 保証書の提示がないか、あるいは記載内容に不足がある場合。
- 取組説明書に書かれている注意事項を守らなかったために発生した故障について。

- (10) 動作確認の後)
- まずはじめに
車のエンジンを停止させた状態（エンジン・キーを「OFF」の位置）にして下さい。
 - ・車の全ての窓を開けた状態で行って下さい。
 - ・ルームランプスイッチは、ドア運動位置（ドアを開けると点灯し、閉めた時に消灯する）にして下さい。（図7）
 - ・本体の感度調整ボリュームを最小にして下さい。（図8）



- 電圧/パルスセンサーの動作確認
- ① 本体上面のSETボタンを1回（1秒位）押し、本体をセットします。このとき、セット確認表示として、LEDが約1秒間点灯し、同時にブザーが「ピッ」と鳴ります。（図9）
 - ② 本体がセットされると、約30秒間のスタンバイモードに入ります。スタンバイモードの間に車を降りて、ドアを開けて下さい。スタンバイモードの間、LEDは遠い点滅（約0.5秒に1回点滅）をします。スタンバイモードのとき、センサーは振動やドア開（ルームランプ点灯）を感知しません。（図10）
 - ③ 約30秒のスタンバイモードが過ぎると、自動的に監視モードに移行します。監視モードの間、LEDは遠い点滅（約5秒に1回点滅）をします。監視モードのとき、センサーが振動やドア開（ルームランプ点灯）を感知すると警報モードに入ります。（図11）
 - ④ 本体が監視モードになったことを確認した上で、静かにドアを開けてルームランプを点灯させます。（図12）このとき、振動をなるべく発生させないようにして下さい。振動を発生すると、振動センサーにより威嚇警報モード（1秒）または連続警報モード（26秒）にて警報する場合があります。
 - ⑤ ルームランプが点灯すると、その際に発生する電圧の変化を電圧/パルスセンサーが感知して連続警報モードにて警報します。（図13）
 - ⑥ ルームランプの点灯による電圧変化を電圧/パルスセンサーが正常に感知することが確認出来たら、エンジン・キーを「ON」または「ACC」の位置にし、本体をリセットします。このとき、リセット確認表示として、LEDが約1秒間点灯し、同時にブザーが「ピッ」と鳴ります。本体がリセットされると、LEDは消灯します。

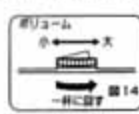


● 使用上の注意

以下の場合、ドア（トランク）を開けても警報モードに入らないことがあります。

- 電圧/パルスセンサーはルームランプ等が点灯する際のわずかな電圧の変化を感知しますので、ドア（またはトランク）を開けてもルームランプ等が点灯しない場合は、警報モードに入りません。ルームランプスイッチは必ずドア運動位置にして下さい。
- 一部の車種ではドアの開閉信号を一旦車両のコンピューターに取込んでからルームランプを点灯させたり、尾灯灯などをコントロールしています。この場合には電圧の変化が非常に小さく、ドア（トランク）が開けられても警報モードに入りにくい場合があります。
- 60分以内に3回、電圧/パルスセンサー感知により連続警報モードにて警報を発した場合は、以後60分間は電圧/パルスセンサー感知による警報は行いません。（振動作軽減機能）この場合、一度本体をリセットすることで、振動作軽減モードもリセットすることが出来ます。

- 振動センサーの動作確認
- ⑦ 本体背面にある感度調整ボリュームを最大にします。（図14）
 - ⑧ ①～⑥の手順に従って、本体を監視モードに入ります。スタンバイモードの間に車を降りて、ドアを開けて下さい。
 - ⑨ 本体が監視モードになったことを確認した上で、フロントガラス、ボンネット等を叩いて車に振動を与えます。このとき、本体に伝わる振動が軽い振動のときは威嚇警報モード、強い振動のときは連続警報モードにて警報します。



● 使用上の注意

- 動作確認の際に車へ振動を与える場合、強く叩きすぎでケガをすることのないようお気を付け下さい。また、車を傷つけないように行って下さい。
- 60分以内に3回、振動センサーが強い振動を感知し、連続警報モードにて警報を発した場合は、以後60分間は振動センサーが強い振動を感知しても威嚇警報モードにて警報し、連続警報モードでは警報しません。（振動作軽減機能）この場合、一度本体をリセットすることで、振動作軽減モードもリセットすることが出来ます。
- 必要に応じて、感度調整ボリュームを回して感度を調整します。軽い振動を与えた場合でも連続警報モードにて警報してしまうときは、感度を下げて下さい。● 威嚇警報に関しては、感度調整は出来ません。

● 使用上の注意

幹線道路沿いなど、交通量の多い場所では、走行車が行く姿を振動センサーが感知して警報してしまう場合が考えられます。連続警報が頻発に起こってしまう場合は、感度を下げて下さい。

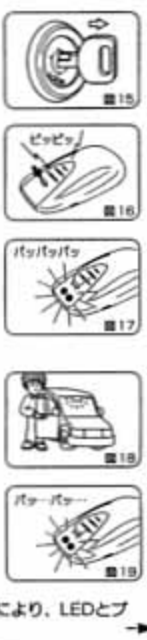
- ⑩ 振動センサーが正常に感知することを確認出来たら、エンジン・キーを「ON」または「ACC」の位置にし、本体をリセットします。

3 使用方法

(用語の意味)

監視モード	振動やドア開（ルームランプ点灯）の監視を行っている状態。このとき、LEDは遠い点滅をします。（5秒に1回点滅）
スタンバイモード	本体をSETした後、監視モードに入るまでの状態 このとき、LEDは遠い点滅をします。（0.5秒に1回点滅） ● エンジン停止中にセットした場合、セットしてから30秒後に監視モードに入ります。ターボタイマー使用等により、エンジン作動中にセットした場合、エンジン停止してから30秒後に監視モードに入ります。

- セット方法
1. 車のエンジンを停止し、キーを抜きます。
 2. SETボタンを押します。LEDが1秒間点灯し、ブザーが「ピッ」と鳴り本体がセットされます。
 3. 本体がセットされると、30秒間のスタンバイモードに入ります。スタンバイモード中、センサーは振動やドア開を感知しません。
 4. スタンバイモードの間、静かにドアを開けてルームランプを点灯させます。
 5. 30秒のスタンバイモードが過ぎると、自動的に監視モードへ移行します。監視モード中、センサーが振動及びドア開（ルームランプ点灯）を感知すると、次の警報モードにより、LEDとブザーで警報します。



● 威嚇警報モード
(弱い振動を感知した場合)

警報時間	LED表示	ブザー警報音
1秒	警報点滅	「ピー」

● 連続警報モード
(強い振動またはドア開を感知した場合)

警報時間	LED表示	ブザー警報音
26秒	警報点滅	「ピー」(1秒) → 休止(10秒) → 「ピー」(15秒)

- リセット方法
6. 車のドアを開け、車内へ入ります。ドアを開けた際にセンサーにより、連続警報モードに入ります。
 7. エンジン・キーを「ON」または「ACC」にします。LEDが1秒間点灯し、ブザーが「ピッ」と鳴り本体がリセットされます。
- 警報開始後11秒以内にキー操作を行えば、ブザーの15秒休止をさせずにリセット出来ます。



2 エンジン・キーレス使用時の使用方法(ケース2)

- セット方法
ケース1同様の操作により、セットします。
- リセット方法
1. エンジンスターターでエンジンをかけます。LEDが1秒間点灯し、ブザーが「ピッ」と鳴り、本体がリセットされます。● エンジンスターターは、ミツバ製以外のものでも併用出来ます。

3 ターボタイマー使用時の使用方法(ケース3)

- セット方法
1. エンジン・キーを「OFF」にします。ターボタイマーが作動し、一定時間、エンジンは作動を続けます。
 2. SETボタンを押します。LEDが1秒間点灯し、ブザーが「ピッ」と鳴り、本体はスタンバイモードに入ります。
 3. 車から降り、ドアをロックします。
 4. ターボタイマーのカウントが終了し、エンジン停止してから30秒後、スタンバイモードから自動的に監視モードへ移行します。監視モード中、センサーが振動及びドア開（ルームランプ点灯）を感知すると、ケース1同様の警報モードに従って、LEDとブザーで警報します。

- リセット方法
ケース1またはケース2と同様の操作によりリセットしてください。

4 主な動作仕様一覧

● 本体動作表示及び確認

本体動作モード	LED表示	ブザー警報音	操作方法
本体停止時	消灯	無音	—
セット時	点灯(1秒)	「ピッピッ」	本体上面のSETボタンを押す。
スタンバイモード	遠い点滅	無音	—
監視モード	遠い点滅	無音	—
リセット時	点灯(1秒)	「ピッ」	エンジン・キーをONまたはACCの位置にする。

● 弱い振動を感知した場合

警報モード	警報時間	LED表示	ブザー警報音
威嚇警報	1秒	警報点滅	「ピー」

● 強い振動またはドア開を感知した場合

警報モード	警報時間	LED表示	ブザー警報音
連続警報	26秒	警報点滅	「ピー」(1秒) → 「10秒休止」 → 「ピー」(15秒)

5 故障とお考えになる前に

このような時	考えられる原因	処置
キーを「ON」または「ACC」の位置にしても本体がリセットしない	白コードの配線ミスが原因。 白コードの接続不良。	テスターで再度確認してください。 しっかりと接続してください。
勝手に警報する。	本体の固定が不十分。 周囲の状況により、振動センサーが動作している。 電圧変化が起きている。(エンジン停止時に他の電圧源が動作している)	付属の両面テープで確実に固定してください。 次のような場合は、振動作することがありますので注意して下さい。 ① 強風時、暴風、台風等の気象条件の場合。 ② 地震が起きた場合。 ③ 道路の付道、運送の付道、振動がある場所。 車両の電圧変化の原因を取り除いて下さい。
振動を与えてもまったく警報しない	車のバッテリーが弱っている。 白コードや黒コードの接続不良	新しいバッテリーに交換して下さい。 しっかりと接続して下さい。
振動を与えても連続警報しない。(威嚇警報はする。)	本体の設置位置が悪い。 本体の設置位置が悪い。 振動作軽減モードに入っている。	振動が伝わらやすい所(「おたひ」)に設置して下さい。 振動が伝わらやすい所(「おたひ」)に設置して下さい。 本体を一度リセットした後、再セットしてください。(振動作軽減モードがリセットされます。)
ドアを開けても連続警報しない	ドアを開けた時ルームランプが点灯しない。 ルームランプが切れている。 振動作軽減モードに入っている。	ルームランプスイッチをドア運動位置にして下さい。 電球を交換して下さい。 本体を一度リセットした後、再セットしてください。(振動作軽減モードがリセットされます。)

